

2020年(令和2年)ズワイガニ漁期前の資源状況

○漁期前の推定資源尾数(鳥取沖・隠岐北西沖・出雲沖)

松葉がに…前年・平年(直近3カ年平均)並み。

若松葉…前年並み、平年を下回る。

親がに(雌)…前々年※・平年を下回る。

※親がにについては、前年の鳥取沖の調査は、破網により、欠測が4地点あり、比較が難しいため、前々年と比較

【漁期前の資源状況の根拠となった情報】

調査船「第一鳥取丸」による調査結果：2020年10月1日～10月20日にかけて、山陰沖の水深184m～428mの海域において、合計27の調査点で着底トロールによる漁期前調査を行いました(図1)。調査海域内における漁獲対象となるズワイガニの推定資源尾数(単位=万尾)は表1のようになりました。

表1 調査海域におけるズワイガニの推定資源尾数(単位=万尾)

| 区分 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 前年比 | 平年： 2017-19平均 | 平年比 |
|------------------|-------|-------|-------|-------|------|------------------|-----|
| 松葉がに(甲幅10.5cm以上) | 40.1 | 59.3 | 51.8 | 46.5 | 90% | 50.4 | 92% |
| 若松葉(甲幅10.5cm以上) | 364.5 | 478.4 | 290.9 | 314.7 | 108% | 377.9 | 83% |
| 親がに(くるこ) | 229.0 | 222.4 | 142.3 | 176.7 | 79% | 227.4 | 78% |

■：親がにについて、前年比は2018年との比較、平年比は2016～2018年との比較の値

※くるこ：漁獲対象となる茶黒色や黒紫色をした卵を持ったメスガニ

松葉がに：前漁期の松葉がに漁は、11月の資源管理の強化(休漁日の増加)や若松葉漁の漁獲量制限(漁期短縮)により漁獲圧が低かった影響もあり、鳥取沖、隠岐北西沖、出雲沖で横ばいであったため、推定資源尾数は前年比90%、平年比92%となりました(表1、図2左)。2019年の調査では、甲幅10.5～12cmの中型個体が主体でしたが、2020年の調査では、甲幅10.5～12cmの個体(21.3万尾)よりも甲幅12cm以上の大型個体(25.2万尾)がやや多い結果となりました(図3、4)。

若松葉：鳥取沖で減少したものの、出雲沖で前年並み、隠岐北西沖でやや増加したため、前年比108%、平年比83%となりました(表1、図2中央)。サイズは前年同様、甲幅10.5～12cmの小～中型個体主体ですが、前年(92.7万尾)に比べ甲幅12cm以上の大型個体が多い(127.1万尾)結果となりました(図3、4)。

親がに：隠岐北西沖でやや増加したものの、出雲沖、鳥取沖で減少したため、推定資源量は前々年比79%、平年比78%となりました(表1、図2右)。サイズは前年同様に甲幅7～8cmの小～中型個体が主体となりました(図3)。

【参考情報】

- (1) 鳥取県の沖合底びき漁業による漁獲量の推移：本県のズワイガニ漁獲量は2004年に1,587トまで増加しましたが、その後は減少～横ばいで推移しています(図5)。2019年漁期の漁獲量は松葉がに383ト、若松葉53ト、親がに370ト、合計805トで、前年(899ト)及び平年(887ト)を下回りました。
- (2) 水研機構日水研調査(調査月：5-6月)：(国研)水産研究・教育機構 水産資源研究所(以下、水産資源研究所)は、日本海A海域(富山県以西)における2020年漁期当初のズワイガニ資源量について、カタガニ(松葉がに)は前年並み、ミズガニ(若松葉)とメスガニ(親がに)は前年を下回ると推定しています。(図6)。

- (3) **大型クラゲ:**傘径 60～80cm の大型クラゲが 2019 年調査はほとんど入網がありませんでしたが、2020 年調査では多数入網しました（平均 6.7 個体/1 曳網）。いずれの海域でも入網しましたが、鳥取沖がやや多い傾向がありました。大型クラゲの多い海域では操業を避けるなど、ご注意ください。

今後の資源状況

水産資源研究所による資源評価調査では、日本海 A 海域（富山県以西）におけるズワイガニ資源量は、2021 年漁期にかけて低下すると予測されています（図 6）。このため、資源の減少を食い止めるための更なる資源管理に努める必要があります。

そのため、第一鳥取丸の試験操業からズワイガニの漁獲対象個体があまり採集されず、オスガニの未成体、若松葉、メスガニの未成体やあかこが多く採集された海域（図 7）では操業を控えるなど、小型のカニや若松葉を多く生き残らせるために、11 月の操業の工夫等により混獲死亡を減らすようにしてください。

ホームページ 本報告は水産試験場ホームページに掲載しています。トップページの「調査研究」からアクセスできます。

URL : <https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1177192/kani2020.pdf>

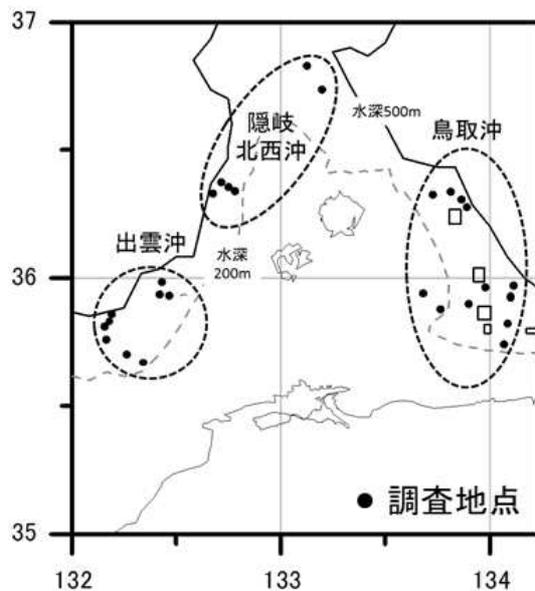


図 1 試験操業位置

その他

2015 年漁期から「とっとり松葉がに」のうち、大きさ・品質・型とも最上級の松葉がにをトップブランド「特選とっとり松葉がに五輝星」として販売を開始しました。

（五輝星の基準）

| | |
|-----|--------------|
| 大きさ | 甲幅 13.5cm 以上 |
| 形状 | 脚が全てそろっているもの |
| 重さ | 1.2kg 以上 |
| 色合い | 鮮やかな色合い |
| 身入り | 身が詰まっていること |

2019 年漁期は約 68.9 万枚水揚げされた松葉がにの中から、117 枚（初競り最高価格 500 万円を除くと平均 4.8 万円/枚）が五輝星に選定されました。本調査結果から大型の松葉がに（甲幅 13.5cm 以上）の資源量は前年並みであったことから、前漁期並みに五輝星が市場に並ぶ可能性があります。

図2 年別海域別の資源尾数 (2016-2020年)

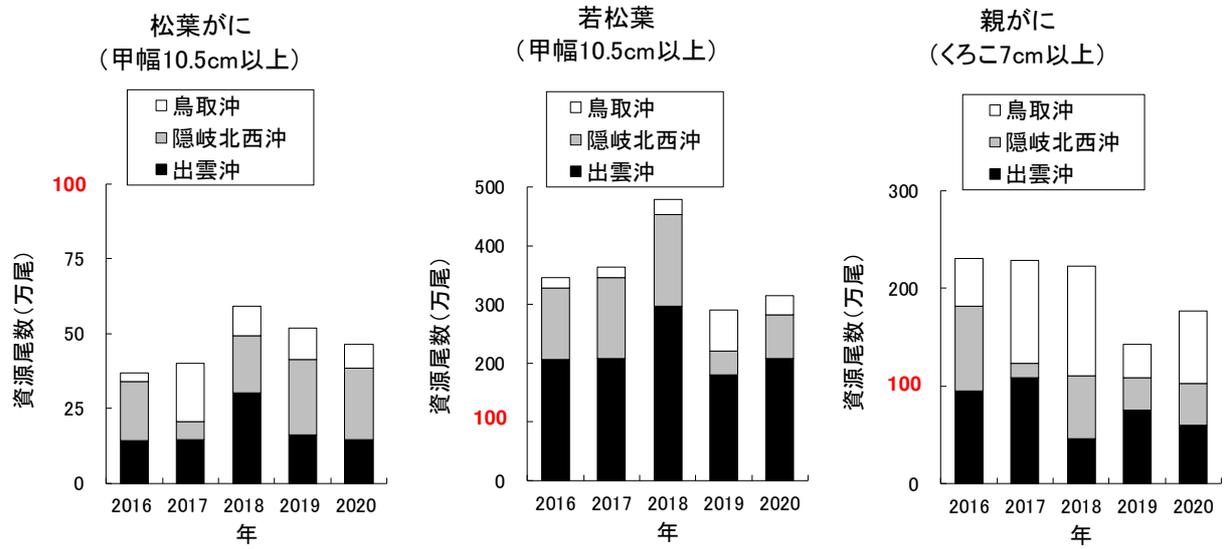


図3 調査海域全域におけるズワイガニ甲幅組成の推移 (2017-2020年)

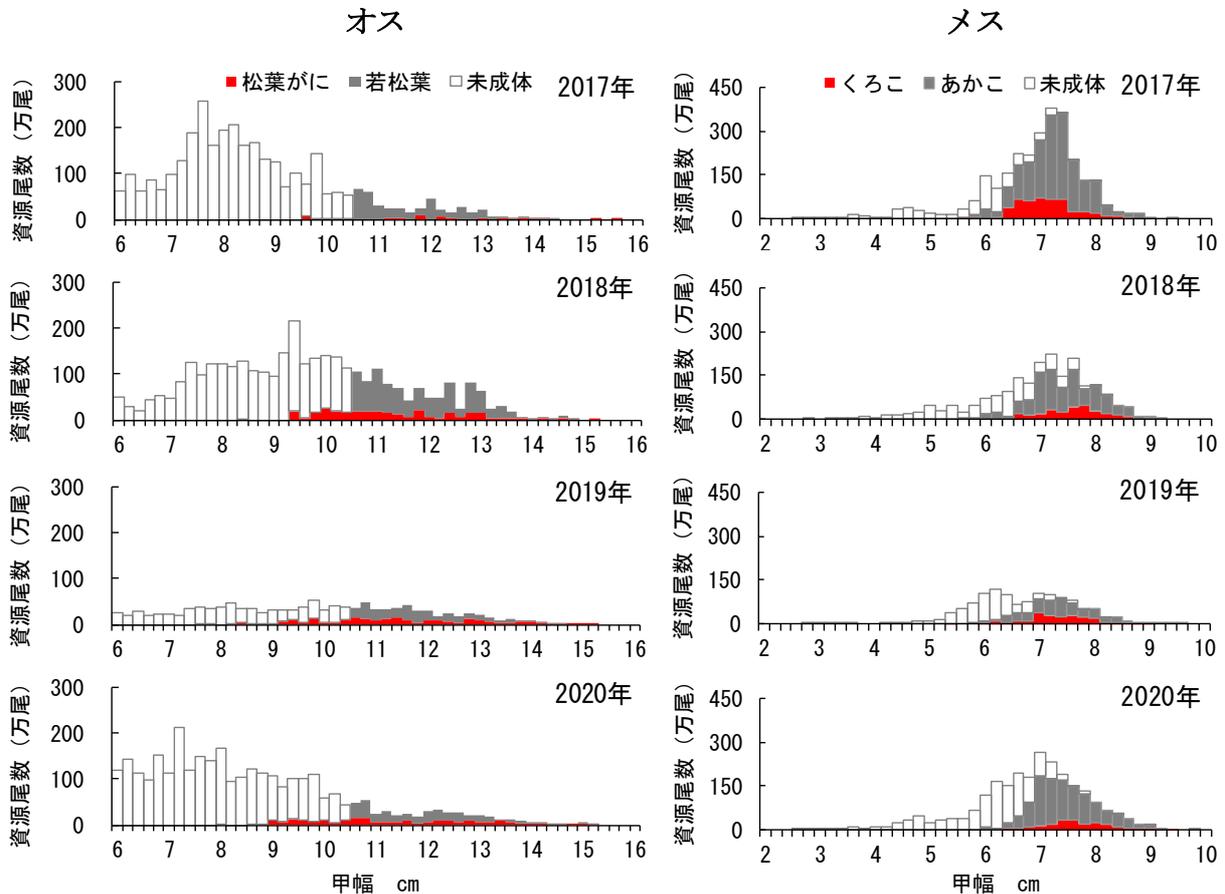


図4 調査海域全域における漁獲対象サイズ (甲幅 10.5cm 以上) の雄ズワイガニの甲幅組成の比較 (2018~2020年)

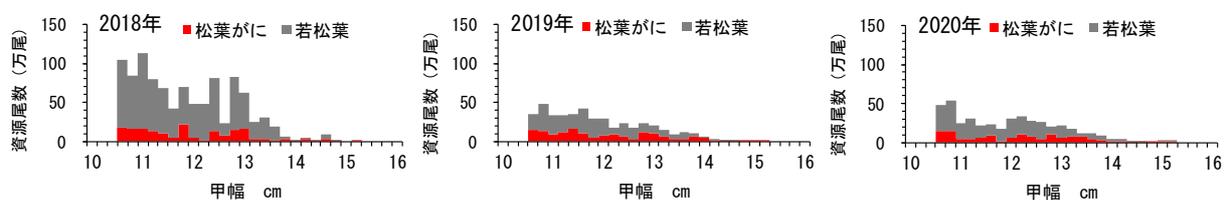


図5 鳥取県におけるズワイガニの漁獲量（漁期年：11月6日～翌年3月20日）

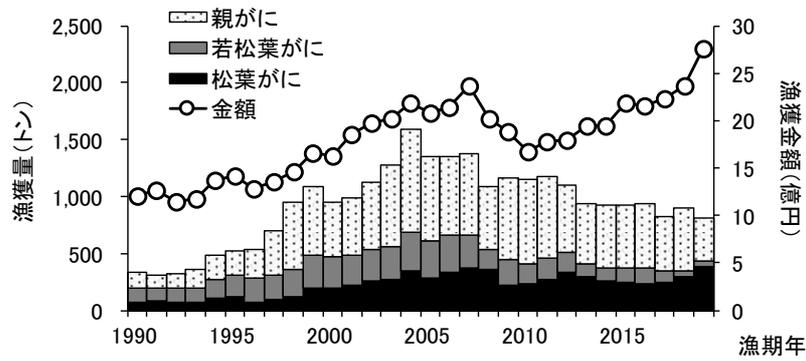


図6 A海域（富山県以西）におけるズワイガニの推定資源量

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所資料

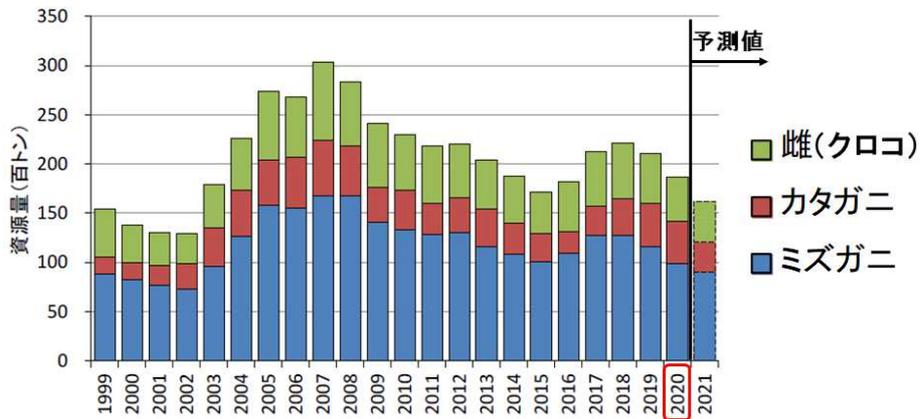


図7 試験操業で漁獲対象個体が多く採集されず、オスガニの未成体（緑印）、若松葉（青印）、メスガニの未成体やあかこ（緑・赤印）が多く採集された海域

